友森とし子さんの詩

人生二十　八年の
旅路をここに　終ります
皆さんお世話に　なりました
夫よ子供よ　さようなら

母さんほんとに　ありがとう
私の心の　おろかさに
我ままばかり　言い張って
あなたを泣かせて　きましたね

私の宿業　だきしめて
ミオヤも共に　泣きますと
聞かせてもらった　その日から
心の闇は　晴れました

ようこそ教えて　くださった
泣く泣く三途に　沈む身が
無碍の白道　ひとすじに
久遠のミオヤと　まいります

一日ごとに　腫れていき
痛みもつのる　この腹を
なでては泣いた　この口に
今では念仏　たえませぬ

私が往った　その後で
明け暮れ三人の　幼な子が
母を尋ねて　泣くでしょう
思えば心が　残ります

お浄土さまから　私は
じっと護って　おりますよ
世間の人に　愛されて
生きぬくように　頼みます

幼き三人の　子供らよ
母さん恋しと　思うなら
み仏さまに　手を合わせ
南無阿弥陀仏と　称えてね

落葉をおくる　風澄みて
み空にかかる　月さえも
雲ひとつなく　冴えわたり
西へ西へと　急ぎます

私も往きます　西の国
輝く光の　お浄土へ
それでは皆様　さようなら
南無阿弥陀仏　阿弥陀仏

(http://www.rengeji.org/ab/sinbun259.htm より転載)